

所報

題字: 武田満之校長(平成9年、野幌中学校)

第155号 令和2年8月4日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町24-6 Tel 381-1058

(主な内容)

- ・ 第1回小学校外国語教育指導連絡協議会の報告
- ・ 令和2年度江別市教職員夏期セミナー実施報告

第1回小学校外国語教育指導連絡協議会の報告



評価に関して説明する江別第二小の黒田先生

7月14日(火)に、新型コロナウイルス感染防止対策のため市民会館の広い部屋を借り、第1回目の小学校外国語教育指導連絡協議会を開催しました。教育研究所長の萬直樹教育部長の挨拶に続き、会長には東野幌小学校の中村和男校長が、副会長にはいずみ野小学校の中村信義教頭が選任されました。

この協議会は、江別市の小学校外国語教育の推進に関わる諸課題を総合的に検討することを目的に設置され、校長会代表、教頭会代表、各小学校の外国語教育担当者、江教研教育課程委員、江教研英語部会代表、ALT、市教委などで構成されています。

今年度は、学校が6月から再開されたので集まりを遅らせ、事前に意見集約を行いました。口元が見えないことやアクティビティーの制限などによる授業づくりの苦労、評価の方法や基準に関する疑問などが多く寄せられていました。

協議では、今年度の事業計画の確認後、評価を中心に交流しました。昨年度まで江別市外国語活動巡回指導教員としてご苦労された江別第二小学校の黒田浩美先生に、資料を基に小学校外国語教育の評価の方法や基準などについて説明していただきました。いくつか抜粋いたします。

■外国語科の3つの評価観点

- ①知識技能(何を知っていて、何ができるか)
- ②思考・判断・表現(知っていること、できることをどう使うか)
- ③主体的に学習に取り組む態度(自ら課題に取り組んで表現しようとする意欲や態度を身につけているかどうか)

■外国語科の主な評価方法 ※指導と評価の一体化 → 指導改善のための評価を意識して

- 授業内の観察(行動観察)
- パフォーマンステスト(児童の発表)
- 振り返りシートの活用
- 「成果物」での評価(ポートフォリオ)
- ペーパーテスト(聞く・読む・書く ※評価の一部にすぎない)

■「振り返り」活動の重要性

- ※「振り返り」も学びの一部 ※「主体的に学習に取り組む態度」の評価との関連
- 自分の力で十分にできるのは何か
- 先生や友だちの助けがあればできることは何か
- まだまだ難しくてできないのはどのようなことか
- 自由記述欄(これからの学び方、友だちの様子から気づいたこと)

評価基準に関しては、「リコーダーや体育実技のように、これぐらいできたらAにしようなどと学年で話し合って評価する方法もできると思います」という説明がありました。

江別市教職員夏期セミナー実施報告

新型コロナウイルス感染防止対策が求められ、小中学校の夏季休業も短縮されたことから、今年度の江別市教職員夏期セミナーは、管理職等を参加対象に、一講座のみを課業日の7月27日(月)に実施しました。参加人数は38名で、内容面の評価では「大変良い」と「良い」は全体の約97%でした。

最初に、主催者として黒川淳司教育長がご挨拶しました。講座では、北海道立教育研究所企画・研修部の千代隆志研究主幹が、「学校における危機管理」をテーマに、事例研究や付箋の活用などの演習を取り入れながら講演されました。新型コロナ対策という「新たな危機」に直面している現在ですが、地震や豪雨などの自然災害、不審者、交通事故、いじめや虐待など、いつ起きるか分からない様々な危機に関して、常日頃から想像力を持って備えていることの大切さを学びました。

参加者の感想をいくつか掲載いたします。

■「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ということわざの通り、現実には周囲で何も起こっていないことで、忘れかけていた危機管理意識を改めて構築し直す良い機会となった。もちろん今は、新型コロナウイルス感染症対策が最優先の危機管理だが、危機管理マニュアルの見直し、研修の必要性、教職員・生徒と学校全体で再確認し合うことの必要性について意識を新たにすることができた。

■池田小、大川小の事例から演習に結びつける流れが私たちの心を動かし、しっかりと考えるきっかけづくりをしていただきました。「新たな危機」について常日頃から考えることが必要で、職場の仲間と共通理解しておくことが大切だと思いました。

■事件、事故、災害は突然起こります。その時にどう対応していくのか、改めて考えさせられました。「準備をきちんとしておくこと＝危機管理マニュアル整備」だと思いました。自分で足りない所を帰校してもう一度考えてみたいです。

■具体的な事例を基に対応策等を説明していただいたので、分かりやすく良かったです。児童虐待の対応については、迷わず、ためらわず、速やかにしなければならぬと思いました。「負のイメージ」を広げる。危機管理の「さしすせそ」を再認識しました。

■学校における危機管理をテーマにしたものは、正に昨今の状況に適した内容で大変学習になりました。特に、全教職員で把握することの重要性、また危機管理マニュアルの定期的な見直しの必要性を感じました。学校に戻ったら、もう一度見直したいと思いました。

■危機管理については、最善の準備をしたとしても足りないところがあるだろうと思う。日々の見直し、複数の教員による視点を変えた見直しが必要だと感じた。

■改めて危機管理の重要性を認識できました。事前・発生時・事後の対応、実際に職員が動けることなど、もう一度自校の取組を見直したいと思います。

■具体事例がわかりやすく、自身のこれまでを振り返る良い機会となりました。今日触れて下さった情報についてすぐに調べ、日々の実践に活かしたいです。

■分かっているつもり...、見直しているつもり...、ということに気付くことができました。



夏期セミナー主催者挨拶の黒川教育長



フェイスシールドを着用して講話する千代研究主幹



新型コロナ対策の工夫の付箋記入を見守る千代研究主幹